永続する使命。
澁澤倉庫
Shibusawa Logistics Corporation

決算説明会 質疑応答

開催日時：2026 年 11 月 25 日　10:00～10：45　WEB ライブ配信にて
出席者　：取締役社長　大隅　毅、取締役副社長　倉谷　伸之
　　取締役上級執行役員　総合企画部長　森山　宗樹、上級執行役員　財経部長　池田　覚

Ｑ１：第 1 四半期の上方修正に対する中間期下振れ要因と、下期挽回の具体策について
回答：予想との差異は主に、9 月の天候不順に伴う飲料関連の減少や価格改定による食品需要縮小によるもの。下期は飲料関連や輸出航空貨物、輸入家電製品の取扱い好調に加え、医療機器や越境 EC 業務の新規受託が寄与することで、通期の営業利益予想は十分達成圏内であると考えている。

Ｑ２：不動産事業の上期実績における減収減益の要因と、既存テナントの賃料引き上げ状況について
回答：不動産事業における稼働率は 100％を維持しており、当社は大口テナントとの長期契約が中心で基盤は安定している。収益・利益の変動は一部テナントの利用動向等における不動産付帯収入の減少やテナント入替時の内装工事等の受注減が主な要因である。都心オフィス市況における空室率低下や賃料上昇トレンドは当社も認識しており、契約更新時やテナント入替のタイミングに合わせ適切に賃料改定交渉を進めている。

Ｑ３：澁澤ワールドトランスポートの中間期の業績寄与と通期見通し、今後の成長性の手応えについて
回答：中間期は輸出航空貨物が好調に推移し、国際輸送業務の増収増益に寄与。通期では不採算事業の整理と PMI の着実な遂行を通じて、当社の既存ネットワークや顧客基盤とのシナジーを創出し、早期の黒字化を図る。成長性については、当社施設やノウハウの活用により収益力および利益率の改善が進んでいる。営業現場における提案意欲も高まっており、計画を上回る収益拡大を見込む。

Ｑ４：政策保有株式の縮減計画における、2029 年 3 月末までの対純資産比率 20％目標の達成見通しについて
回答：2029 年 3 月までの 5 年間で累計 40 億円以上の売却計画に対し、既に 3 年間で累計 110 億円に達した。株価上昇や純資産の過度な積み上がりを抑制してきた影響により対純資産比率は横ばいだが、更なる前倒し売却で目標達成を目指す。

Ｑ５：TOPIX 見直しの結果について
回答：移行措置銘柄となったことは残念な結果と受け止めている。企業価値向上に向け、事業戦略・財務戦略ともにやるべきことを着実に実施していく方針に変わりはなく、当社の取組みが企業価値に適切に反映され、来年 10 月に移行措置銘柄から外れることを期待している。

Ｑ６：累進配当と記念配当剥落後の来期配当について

回答： 現中計では累進配当および配当性向 50％以上を掲げている。来期の配当については、成長投資とのバランスや業績見通しを踏まえ、次期中計の株主還元方針の中で改めて提示していくが、積極的な成長投資を実行したうえで株主還元を強化していく方針に変わりはない。

Ｑ７：中計における 400 億円の成長投資の進捗状況と、今後の成長投資に対する考え方について

回答：過去 2 年間で約 130 億円を投資し、今期も 40～80 億円を予定しているが、拠点の拡充をキャシュアウトの少ない賃貸倉庫を活用したことや、検討中の M&A 案件の未実行等により、総額 400 億円には未達となる見通し。今後は業域拡大に向けた異業種との提携・出資や自動化・DX 投資案件を推進し、次期に未達分を充当することで積極的な成長投資を継続していく。

以 上